



寺報

2023年(令和5年)

No. 335

10月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

高名なお坊さん(その22)

道綽禪師(西暦562年~645年)中国并州文水(現在の山西省文水)の高僧

道綽禪師は、淨土真宗では七高僧の4番目にあげられて、多くの人から尊敬されている高僧。

14歳で出家し『涅槃經』を始めたが、石壁玄中寺の曇鸞大師の碑文を読み、48歳で淨土教に帰依したという。以後、日々念佛を称えること七万遍、『觀經』を講義すること200回以上に及び、民衆に小豆念佛（小豆で念佛の数量を数えること）を勧めた。その著書の『安樂集』（二巻）は、曇鸞大師の教学を受け、末法到来の時代の認識、聖淨二門判などの淨土教の主要な問題について述べたものである。

『安樂集』に記された道綽禪師の教えの最も重要なところを、親鸞聖人は、『正信偈』にこう教えられています。

「道綽は聖道の証し難きことを決し、唯淨土の通入す可きことを明す。」（正信偈）



平成27年1月開催の護持会役員会

道綽禪師は、仏教に2つあるといわれ、1つ目は聖道、2つ目は淨土と教えられています。聖道門というのは、出家をして戒律を守り、修行によって煩惱をなくして仏のさとりを目指す教え。宗派でいえば、華嚴宗や法相宗、天台宗や真言宗、禪宗など。「聖道の証し難い」というのは、さとりを開くのが難しいということです。

聖道佛教では、山にこもったりして修行していますが、どんなに頑張っても助からないと断言されました。

住職レター

今月末、護持会役員会を開催し、護持会報恩講・善教寺報恩講の開催について話し合いました。昨年までは、コロナ禍ゆえに、半日での法要開催がありました。当然、お斎（法要料理）は無し。マスク着用、お隣の方とは間隔を空け、寒くても換気を行う。おそらく今年は、コロナ禍前のような、通常の法要開催が可能になるかと思つております。

問題は、お斎（法要料理）をどのように行うか。接待当番を、四つの地区毎の輪番制にしておりましたが、従来通りと同じ様式にするか。いろいろ検討しなくてはなりません。

コロナ禍を通して、世の中の動きが一気に加速し、価値観が大きく変化してきました。今後、世代が変われば、また大きく変わっていく事でしょう。今までと同じ様式を、今後も続けていくことは、難しい時代になつたのではと考えます。

報恩講法要がこれから先も勤め続けられ、各世代に受け継がれ、大切な事を継承していく、そのような観点から考えないといけません。当然、変えてはならないところは変えてはならないでしょう。不易流行の如く、いろいろ模索して参ります。ご協力ください。

ゆかりの寺シリーズ その25

大内義隆 ゆかりの寺

「瑞雲山龍福寺(曹洞宗)」



山口市大殿大路にある曹洞宗寺院。毛利隆元が大内氏館跡地に建立した大内義隆の菩提寺。元氏寺・興隆寺から本堂が移築されていたり、長門深川・大寧寺にある義隆墓碑の模造品が置かれている。

明治14年(1881)、龍福寺は火災によって焼失したため、毛利隆元が再興した当時の建物はほとんど残されていない。現在の本堂は、興隆寺から移築されたもので、元は同寺の釈迦堂であった。興隆寺は周知の通り、大内氏の氏寺だった寺院で、この本堂は文明11年(1479)に建立されたものといわれている。その後、大永元年(1521)、大内義興が再建した。

明治十六年(1883)の修築で、元々こけら葺だった屋根が桟瓦葺となり、大内文化を愛する方々から惜しまれていた。平成時代に保存工事が行なわれ、現在は室町時代の姿に戻されている。

史料館の建物は、明治時代に焼失を免れた禅堂である。山口県指定の有形文化財「大内義隆画像」などを見るできる。資料館入り口横には、大内義興公「馬上展望」像が安置されている。



大内義隆



龍福寺山門



龍福寺資料館

「護持会報恩講」 (善教寺本堂)
十月二十一日(土)

午前十時

朝席

午後一時半

昼席

午後三時半

法要終了

講師 広幡康祐師

(吳市安浦町信楽寺)

「報恩講」 (善教寺本堂)
十二月二日(土)

午前十時

朝席

午後一時半

昼席

午後三時半

法要終了

講師 登世岡浩雄師

(広島市東区牛田安樂寺)

*お接待当番 中郷地区

今後の法要スケジュール

**「宗祖聖人月忌・
門信徒祥月命日法要」** (善教寺本堂)

十月十六日(月) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。



ご縁に感謝
善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp